KFC-MESSAGE　2007.11.04

＝愛、死・一つ、復活の命、神の働き＝

Mr.Sugar（菅原兄弟）によるメッセージ

①「使徒行伝」に見る「主の言葉」の広まり：その例は多いが12の20から
24では、偉そうな演説との対照が面白い。

②父と御子における愛、一つ、喜びが創造と贖いを達成させた：創世記1の26、
1の31、ヨハネ4の34、ヘブル1の9（それがあるからお父さんは働く！）

③神の側では人との一つはイエスの死において既に完成されている：ヨハネ19
の30、Ｉコリント1の30、6の17、15の45、箱舟の例は創世記7の1
2，13「ちょうどその同じ日に」。バプテスマの例はローマ6の3、接合の例
は6の5、イエス＝信者は使徒行伝22の4、7、8

④信仰が土台となり、初めて一つと愛の実感が来る：Ｉテモテ1の14。ヨハネ
15の4ではイエスとの一つの中に→9ではイエスとの愛の中に留まる。

⑤キリストと信者は一つの命と生活を生きる、「あなたは私、私はあなた」は
ガラテヤ2の20、ピリピ1の21

⑥愛の経験は主観的なもの：雅歌1の2、ローマ5の5、Ｉペテロ4の8「なに
よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。」(神の命令を行う基礎は神の達成
による既成事実とそれへの信仰。主と離れてあなたが行おうとすると失敗する)

⑦相手との一つを失った者の姿：ルカ15章の羊飼い、女、父の渇望。
しかしそれが回復された時、喜びは爆発しセレブレーションへ。そこに向かう時
と回復時のエネルギーが「働き」の力。基本は愛。

⑧死がなければ復活の中の一つはあり得ない「愛→一つ」とは行かない。だから
キリスト者に死は避けられない、死による純化：Ⅱコリント4の9から12